

振り返ってみても今年の秋は短いように思います。運動会を行った10月上旬は、気温30℃を超える日が続きました。そして、運動会が終わると一気に冷え込み、朝晩の気温が10℃程度と低くなりました。金木犀の香る時期も遅れていたような…？しかし、実りの秋。成果を残したいものです。そこで詩を一編紹介します。子どもも大人もこの詩から情熱をもらい、晩秋の日々を大切に過ごしていきましょう。

『鈍刀を磨く』

詩人 坂村 真民 作

鈍刀をいくら磨いても 無駄なことだというのが ※鈍刀=切れ味の悪い刀
何もそんなことばに 耳を借す必要はない せっせと磨くのだ
刀は光らないかもしれないが 磨く本人が変わってくる
つまり刀がすまぬすまぬと言いながら 磨く本人を光るものにしてくれるのだ
そこが甚深微妙の世界だ だからせっせと磨くのだ ※甚深微妙(じんじんみみょう)
=奥が深く、且つ細やかなこと



● 作品展示週間についてのお知らせ

11月29日(月)～12月7日(火)

☆保護者の鑑賞は、個人懇談の日程のみで13:30～17:00(原則)

今年度の作品展示も新型コロナウイルスの影響下、今までと異なる形式で、個人懇談の期間に合わせて全学年で行うことにしました。授業時数の確保のため、制作に多くの時間を費やせない中ですが、児童も先生も今、作品づくりに一生懸命に取り組んでいる最中です。保護者の皆様には、児童たちの個性輝く作品を個人懇談の当日に味わっていただきたく思っています。作品の内容・紹介等についてのお知らせのプリントは、後日、配布いたします。

● お知らせ(個人懇談会についてのお願い)

今月末から行う個人懇談につきましては、案内でもお伝えしています通り、新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用や手指消毒をお願いします。また、校内の換気に努めたいと思いますので、常時、窓と扉を開け、担任とは適度な距離(2m程度)をとっての懇談となりますことをお知りおきください。最後に、発熱等、体調等が優れない時は、遠慮せず日程変更等についてご相談ください。

● 雑 感 ～読書の秋から得た思い～「天に星、地に花、人に愛」 きょうげん ちかん 香 巖 智 閑 (禅僧のことば)

天に星が輝き、地に花が咲き、人に愛があることによって人間の命は永遠に保ち続けられている。——自分の父母が生まれる遙か以前から、天地は、人間は、この営みを連綿と繰り返し、その中に、『私』という一人ひとりが存在している。「天に星、地に花、人に愛」。命の原点を教えてくれる言葉である。最近、心臓の二つの弁が、同時に開いたり閉じたりする様子を超音波エコーの映像で見る機会があった。その真剣な働きに圧倒された。二つの弁は、まるで申し合わせたように、一分の狂いも休みもなく、ひたすら呼吸を合わせて自らの務めを果たしている。必至である。心臓は一日、二十四時間、一年。三百六十五日、一刻も休まず、必死、懸命の営みを繰り返しているのだ。もし、人間が同じことをやれと言われたら、数分もしないうちに音をあげてしまうだろう。こんなことは人間にはできない。神業である。人間の命は我々のあずかり知らないところで繰り返されている神業によって支えられている。「天に星、地に花、人に愛」。—— 心に、じんと染みわたる人生訓です。